

大腸がん検診のご案内

大腸がんは罹患数も死亡数も多く、
現在も増加傾向にあります。

罹患数*

第1位

死亡数*

第2位

*国立がん研究センター（死亡数：2019年・罹患数：2017年）

早期発見で5年生存率は99.1%！*

“大腸がん検診”を受診しましょう！

自覚症状がない段階での発見が重要となります。

*国立がん研究センター 5年相対生存率2020

主な大腸がん検査

1. 便潜血検査

大腸内の出血有無を検査する検体検査となります。

死亡率減少効果が認められており、検診として強く推奨されています。

大腸がん検診の基本です。
採取忘れに注意しましょう！

2. 全大腸内視鏡検査

大腸内を内視鏡で観察する画像検査となります。

主に便潜血検査陽性者の2次検査や自覚症状がある方が対象となります。検査の利益と不利益を理解した上で、個人の大腸がん検診として受診することも可能です。

*検査の詳細、お申込み・お問い合わせ先は裏面に掲載しております↓

大腸がんってなに？



<早期発見でほぼ100%完治だけど…>

大腸がんは長さ2mの大腸（結腸・直腸・肛門）に発生するがんで、日本人はS状結腸と直腸が、がんのできやすいところです。

大腸がんは早期発見できれば、ほぼ100%が完治できますが、**無自覚、無症状な場合が多いために発見が遅れ**、症状が出たときには進行がんになっていることがあります。

<男女とも罹患数も死亡数も上位>

大腸がんにかかる割合は50歳代から増加し始め、高齢になるほど高くなります。がんによる部位別**死亡数は大腸がんは女性第1位、男性第3位**となっています。また、**大腸がんの罹患数は女性は第2位、男性は第3位**です。大腸がん増加の主な原因は食の欧米化が原因といわれております。

自覚症状が無いからこそ、1年に1回は必ず検査をしましょう！

大腸がんの検査ってどうやってするの？

<便潜血検査>

がんやポリープなどの大腸疾患があると、大腸内に出血することがあります。この検査は、その血液を検出する検査です。

全大腸内視鏡検査と比べて検査精度は劣りますが、**安全、簡単、安価**で一度に多くの検査が実施可能である為、検診方法として非常に優れています。また、**死亡率減少効果が認められており、大腸がん検診の基本**となります。

* 便潜血検査の2日分の採取について

採便は、2日間の採取が有効的とされています。(2日法での検出率は1日法より1.3倍高く検出できるとされています。)

できるだけ便を2日分ご提出ください。

<全大腸内視鏡検査>

この検査は、大腸全てを内視鏡で直接観察する方法で、がんやポリープに対する診断精度が高いのが特徴です。

便潜血検査陽性者の精密検査や自覚症状がある方が主な対象となります。検診で受診する場合は、利益と不利益を十分に理解したうえで受診してください。

* 大腸がんの代表的な症状

- 便に血が混ざる
- 下痢と便秘が交代で起こる
- 便の太さが細くなる
- 残便感が残る
- 排便回数が増加する
- 腹部に痛みや不快感がある
- 原因不明の貧血がある

お申込み・お問合せ先

092-526-1087

「大腸がん検診の予約で」と伝えて頂けるとスムーズです。

受付時間 (8:30~17:00)

公益財団法人 福岡労働衛生研究所

- 労働研健診センター 〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目11番27号
- 天神健診センター 〒810-0001 福岡市中央区2丁目8番36号
- 延岡健診センター 〒882-0872 宮崎県延岡市愛宕町2丁目1番5号 TEL. 0982-29-4302

